

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果【本巢市】

1 調査について

実施日	令和6年4月18日（木）
対象	小学校・義務教育学校6年生、中学校3年生・義務教育学校9年生
内容	（1）教科に関する調査 小学校：国語、算数 / 中学校：国語、数学 （2）質問紙調査（学習や生活等に関して）
目的	義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から ・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育の成果と課題を検証して改善を図る。 ・学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。 ・教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。



2 本巢市全体の結果

（1）教科に関する調査

小学校	○よくできていた点	△課題点
国語	・目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くこと。	・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討すること。
算数	・図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目し、直方体の見取図をかくこと。	・単位量あたりの大きさ（速さなど）について、深い理解を伴う知識の習得と活用すること。

中学校	○よくできていた点	△課題点
国語	・話題や展開を捉えつつ、互いの考えを結びつけ自分の考えをつくること。	・目的に応じて必要な情報に着目することや要約すること。
数学	・四分位数の意味を理解し、複数の集団のデータの分布から、四分位数範囲を比較すること。	・図形の性質を考察する場面において、筋道を立てて数学的に説明すること。

（2）質問紙調査（よさと課題）

①よさや高まりが見られたこと

- ・中学校では、国語・数学の「好き」「分かる」ポイントが上昇しており、また、平均正答率の高まりとの関連が考えられること。
- ・自己肯定感に関する項目は、小学校・中学校ともに上昇傾向にあり、地域の中にある学校としての諸活動が意識され、地域や社会のために活動する意欲が高まっていると推測されること。

②課題として改善を図ること

- ・小学校の国語・算数で「好き」「分かる」と回答する児童の割合が低いことから、どの子にとっても教科の本質的な「おもしろさ・楽しさ」を実感できる授業改善を図ること。
- ・タブレット端末を活用した授業の頻度に課題が見られる。授業改善の視点を踏まえ、より効果的な活用方法を考え、実践すること。

（3）今後の重点

◎教科の本質（見方・考え方）を踏まえ、児童生徒にとって目的のある主体的な学びをもとにした授業づくり“教師は学びのパートナー”

- ・個人の学びに必要な方法やペースを選択したり、自分の言葉で語ったりする機会が多い授業づくり
- ・児童生徒がタブレットを効果的に活用する自由度のある授業づくり

◎『自分の学校は自分でつくる～「自分」を認めてもらえる権利～』の気風に満ちた学校づくり

- ・「子どもは有能な学び手」であることを理解し、先生は子どもの学びに伴走する
- ・先生と子どもが対話をとおして意思疎通を図り、共に学校をつくる意識を持ち続ける

